

経済同友

3 March 2010
No.721

今月の表紙「モンステラ」

ハワイなど熱帯アメリカに分布しているサトイモ科のツル性植物。葉に穴が開いたり、深い切れ込みがあったりと形状が面白いため、観葉植物として親しまれています。モンステラの名前は、ラテン語で「怪物」を表すモンストラムからきていると言われています。



副代表幹事
政策懇談会 委員長
金丸 恭文
フューチャーアーキテクト
取締役会長CEO

複雑骨折

昨年「政権交代」が実現し、国民の大きな期待の中、民主党政権が誕生した。鳩山総理と支える大臣や副大臣たちの顔ぶれも、自民党より若くて新鮮で、しっかりした受け答えぶりに、期待はますます膨らんだ。あれからわずか6カ月。われわれの心の中はもやもやとした不快感と失望感が充満している。自民党長期政権時代に国民が辟易したのと同じ「政治とカネ」の問題で、民主党の金メッキがすっかりはがれてしまった。一方、自民党は、実績と経験に裏づけされた最強の野党として未経験の民主党を鍛え上げ、二大政党制定着の半分以上の役割を担うことは間違いないと思っていたら、これまた野党時代の民主党以下の体たらくである。クリーンなはずの与党がダーティで、最強のはずの野党が弱すぎる。国民にとっては二重の誤算である。

ふっと日本は『複雑骨折』だなあと嘆き、インターネットで検索してみた。複雑に骨折していることをいうのかと思ったら、複雑骨折とは必ずしも折れ方が複雑なのではないようだ。

「骨折部と外界が創により連絡しているものを開放性骨折または複雑骨折といい、骨折部と外界が閉鎖されているものを閉鎖骨折または単純骨折という。複雑骨折では感染症の可能性が高く、特に深部感染をきたすと骨癒合は遷延し不良な予後経過をたどることもある」(引用：医学百科事典 livedoor wiki)

細菌感染する可能性もあり、治療も複雑になるので『複雑骨折』と呼ばれているとのことだ。私が当初思った複雑な骨折ではないが、複雑な治療が必要な点においては、やはり今の日本は『複雑骨折』に違いない。

先進国間の競争に、大きな潜在市場を持ちながら急成長する、ハングリーでアグレッシブな新興国が加わり、グローバル経済の様相は一変した。現在の危機は民主党政権の危機ではなく、国家・国民の危機である。

国内には少子化、高齢化社会への難題を抱えながら、国際的には中国・インドやその他台頭する新興国とどうやって競争や共存を図っていくか、成長と安心社会両立へのロードマップが国家戦略として最重要課題である。「政治とカネ」菌や「デフレ」菌の感染が悪化して手遅れにならないよう「正しい」治療が必要だ。もちろん回復には患者の自立した前向きな姿勢が不可欠なことはいうまでもない。

Contents

- 01 巻頭言
金丸 恭文「複雑骨折」

- 02 特集
「社会的課題をビジネスにしたCSR経営の実践」
～CSR経営先進企業の経営者が語る成功事例～

- 09 リレートーク
白川 祐司「キャピタリズム」

- 10 委員長インタビュー
教育問題委員会 北山 禎介
情報通信政策委員会 細谷 英二

- 12 経済同友最前線
情報通信政策委員会 提言
「ICT活用による次なる成長のための5つの提言」
教育問題委員会 提言
「経済格差を教育格差に繋げないために」

- 18 コペンハーゲン通信
「デンマーク流「春闘」」

- 19 新入会員紹介
2010年2月19日現在の入退会者
同友会スケッチ
2010年2月の記録と4月の予定

- 22 私の思い出写真館
古川 紘一「故郷忘じがたく候」